

和十三年十一月二十五日印 刷 納本
和十三年十一月一日(毎月一回)一日發行

良政の路道

載 轉 禁

號一十第一 卷十二第二



道路改良會發行

鋪裝報國

鋪

日本鋪道株式會社

東京・丸之内

社長 浅利三朗

東京・大阪・福岡・札幌・京城・台北・新京・橫濱・名古屋・京都



一般道路鋪裝工事請負

瀝青乳剤

混合用エマルジア
透入用エマルジア

東京瀝材工業所

本社

東京市京橋区銀座西三丁目一番地 碓子ビル
電話京橋(56)一三二五番

出張所

大阪市東区釣鐘町二丁目三九番地
大倉生木株式會社大阪出張所 末部内
電話(東)三二一ー三三五番

出張所

仙台市東七番町四五番地
電話二二一一六番

五場

東京市江戸川区長島町五七〇五番
電話葛西一三五番

道路の改良 第二十卷第十一號 目次 昭和十三年十一月一日發行

口繪 神立橋 (島根縣)

卷頭言

論 説

道路鋪裝の效果

土木局長 安藤狂四郎 (三)

統制經濟と道路

慶應大學教授 野村兼太郎 (九)

研究

陸運調整の實際

(一七) 内務事務官 武若時一郎 (八)

米國に於ける劃期的道路及び交通

(二〇) 内務省土木試驗所 永富勘四郎 (六)

技術

路面の縱横滑り摩擦抵抗試驗に就て (一〇) 内務技師 島田八郎 (三)

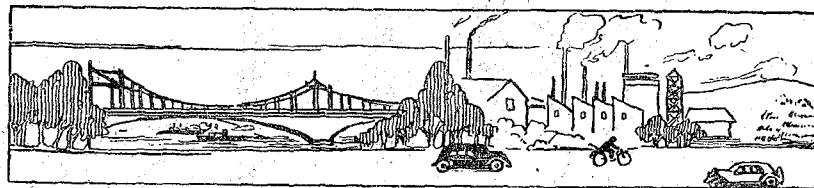
說苑

権原神宮と建國奉仕隊 (三)

奈良縣権原神宮神域
土木工事各務所 藤田宗光 (西)

北支に於ける土木事業 (十月十一日放送) (一)

中華民國臨時政府建設總署技監工學博士 三浦七郎 (交)



大阪市に於けるバスの統制を見る

記者(也)

物件移轉補償金の正當債権者と
縣當局の處置に就て

高知縣廳土木課 梅田三郎平(△)

靜岡縣に於ける道路愛護
神立橋渡橋式の狀況

靜岡縣廳土木部道路課(△)

高田廣君の轉任を惜む

島根縣廳土木課(△)

路政小感(△)

K 生(△)

時局日誌

淺香生(△)

東北・關東・東山・東海・近畿・中國・九州の各地方

Y H 生(△)

最近内務省に於ける路政關係行政處分例

M O 生(△)

逐條土地收用法資料(△)

高坂孝三(△)

路政春秋

全線アフスアルト坦々たる鋪裝道路は何處に
其他(△)

雜報

○藤井、細田兩本會幹事の視察旅行
○内務省土木試驗所談話会
○近刊圖書雑誌
○叙任辭令
○編輯室の内外

道路鋪裝工事其他一般土木建築工事請負
瀝青乳剤アスメント
(滲透用・混合用) 製造販賣

石材・セメント・機械類販賣

昭和工業株式會社

専務取締役

藤窗惟一

本社 東京市麹町区内新町一、三

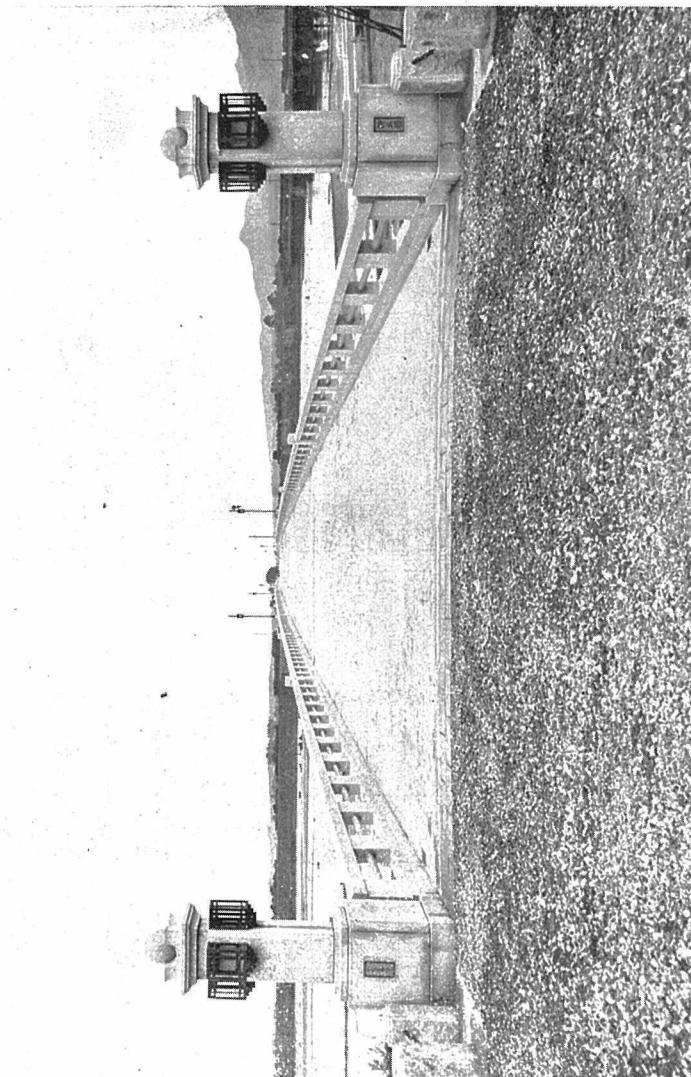
大阪ビル

電話銀座五自一二八九

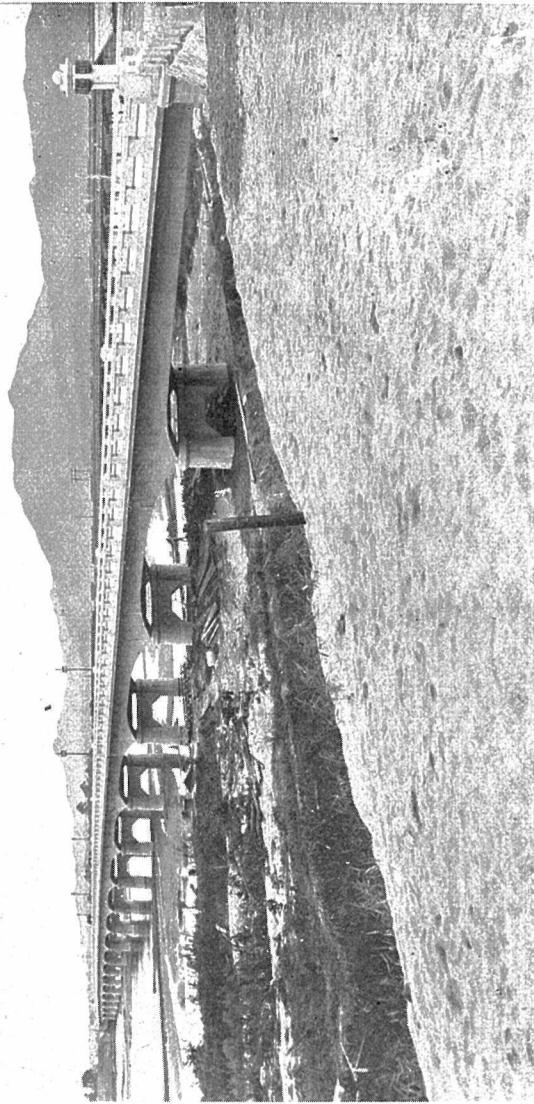
瀝青工場 東京市芝区月見町二、四
石材採掘場 静岡縣田方郡村島村富戸
當業所 大連
大阪府古屋札幌台北京城

本誌第二十卷第十一號說苑欄參照

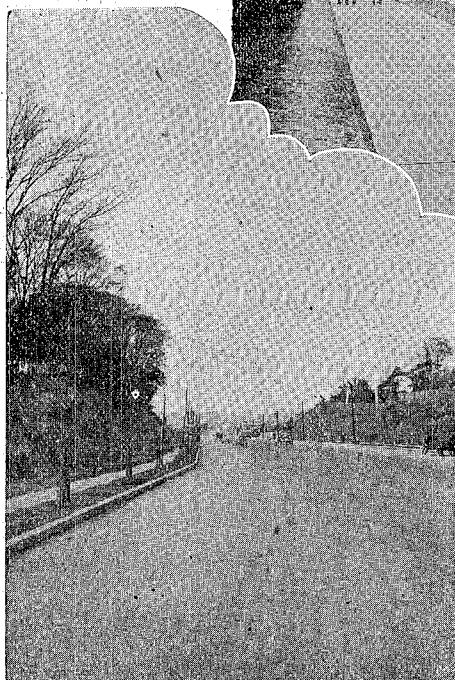
神立橋 (島根縣)



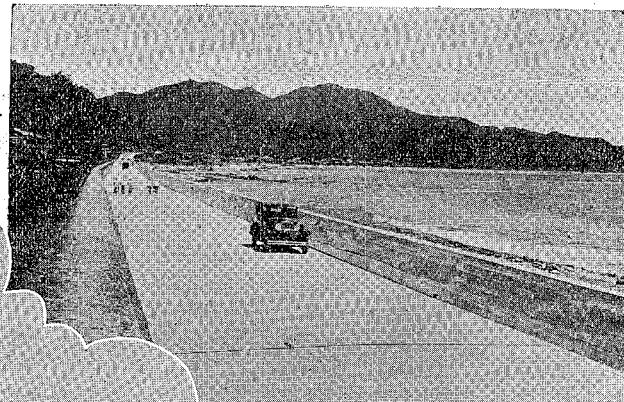
神立橋側面



静岡縣由比國道
→
ベロセメント使用



↑ 大宮街道志村附近
浅野セメント使用



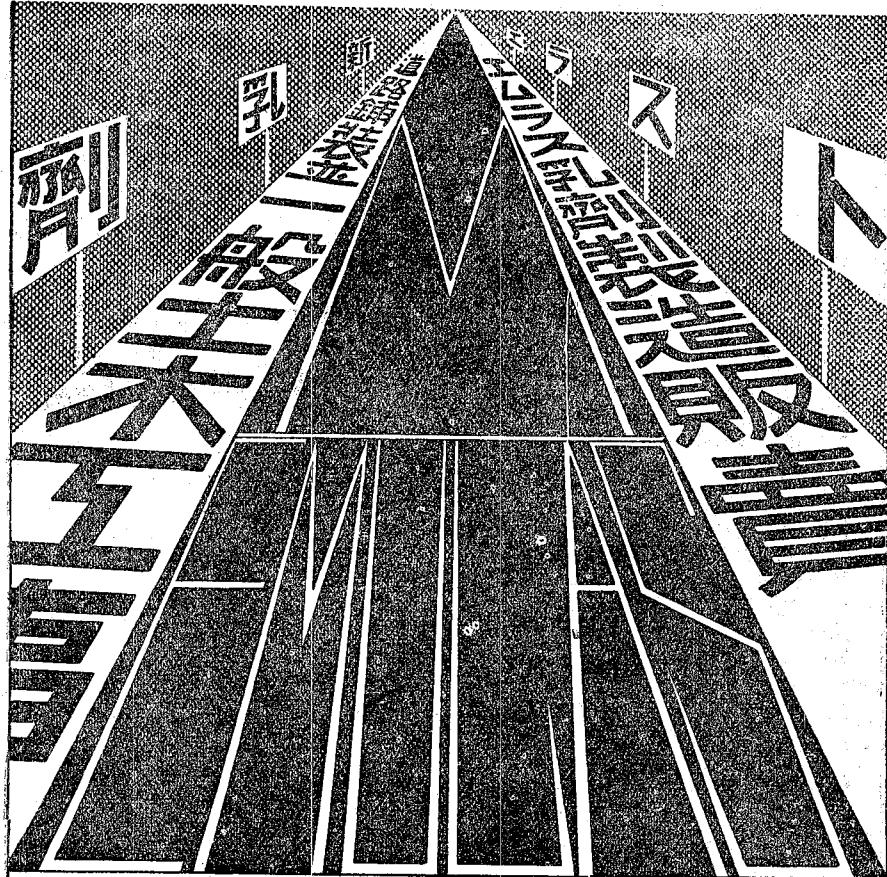
早 強
**アサノ
ベロセメント**

強度高
硬リ
使テ
ク
ク
経濟

—説明書御申込次第送呈—

浅野セメント株式會社

東京市 丸ノ内 海上ビル



エムラス道路工業株式會社

本社 東京市向島區吾嬬町西四ノ二四電話墨田二六三七番
互場 東京市・大阪市・佐賀市・大分市・弘前市・札幌市・群山府・羅州邑・新京市・川辺市
出張所 大阪市・佐賀市・札幌市・大津市・群山府・羅州邑・新京市・川辺市

一般土木建築鋪裝
材料製造販賣

一般土木建築各種
鋪裝工事請負

型錄贈呈



日本ソリデチツト株式會社

國產ネオソリデチツト製造販賣

ネオソリデチツトブロツク及各種コンクリート加工品製造販賣

ミクニアスフルト乳劑及ミクニアスフルト乳素製造販賣

ミクニエラスタイル其他アスフルト加工品製造販賣

早山石油株式會社製アスフルト特約販賣

東邦石油株式會社製アスフルト特約販賣

日本製鐵八幡製鐵所製タル及鑛澤バラス一手販賣

日本鋼管株式會社製タル及鑛澤バラス一手販賣

日本アスフルト株式會社製アスフルトブロツク一手販賣

取締役會長

今井五介

本社

東京市京橋區京橋三丁目二番地(片倉ビル)

電話京橋二七七二、五三三一

大阪出張所

大阪市東區北濱二丁目九〇番地(片倉ビル)

電話北濱三六一九番

名古屋營業所

名古屋市中區南大津通六丁目三番地(片倉ビル内)

電話中三四九五番

常務取締役

櫻澤鶴吉

九州出張所

八幡市竹下町一丁目八二六番地

電話八幡一三三五番

支配人
岸田正一

北海道出張所

札幌市豊平五條三丁目八一〇番地

電話札幌三五三〇番

工場品川、蒲田、大

阪番地

出本配回六第
機搬運及機重起

一尚口野
授教大東士學工

輪車道鐵
益藤後
師技道鐵
長場工倉小

出本配回六第
橋拱及橋桁

博野大
師技務內
士學工

出本配回七第

學工灣港

長課術技第一第省務內
士學工

次雅木鈴

大學工械機械新要

貞十五百二卷每製上葉卷三十全。
機成養的成速の者術技秀優
誠滿圖密納

館五十七四二地外 錢十五圓二月每書導指際實の切懇易平。關

大學工クンコ筋鐵安

貞十五百二卷每製上葉卷八全。
實の位本場現つ立に役グス
誠滿圖密納

館五十七四二地外 錢十五圓二月每書導指際

大學工木アルス

均平百四卷每製上葉卷九全。
本る依に者威權高最的地實
誠滿版圖

錢十五圓三地外 錢十二圓三月每書導指

スルア、

町保神田駒京東
八八八四二京東留振
六七一二、五七一二段九活電

日本でキガハ
次越申御に宛
すまし昆蓮第

呈進本見容内

學躍界進工業前の大編隊日本推進力

二題 直大 授教大北

一題 山森 士學工

一題 山森 士學工

開設部本政篤軍番

行發會協務日本

開設部本政篤軍海

行發會協務日本

一題 野日 授教大東

郎一嘉誠士學工

夫英 原吉 教授大北

平福屋部頃 士學工

郎三新野佐 授教大北

郎四 田石 士學工

雄秀 於田 頃

兄謹 野小 士學工

兄謹 野小 士學工

郎次敬川小 士學工

ンピータ殊特用場工

I 論理機動發空航

I 論理機動發空航

I 準標業作造鑄

I 準標業作造鑄

昆法療氣電

罐汽

梁續

要綱簡

料材機空航

(篇造構) I 度強及

度強造構の路線道鐵

(篇度強) I 度強及

度強造構の路線道鐵

法計設材部土凝混筋鐵

工業日本の精粹、各部門を代表する機械者の執筆による空
前の名著、工業の全般に亘り簡潔明快、其の要點を縮歟し
た最新知識の一大集成、學界並に關係業者の必讀を乞ふ。

アルス工學全書

・明説・外内貢百二各・判裁半箱・
・筋スローラ總・誠滿圖密納・
・意附録選・本酒添罕堅・入函・

圓一名定價



アイスファルト

施工

ブランクアンド
ペイント
アーティスト
オーナー

販売

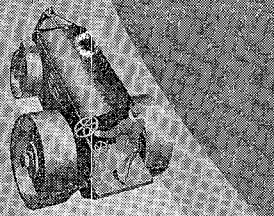
小倉石油株式会社
専属販売店

南部商会

本店 東京丸の内一歳六号館
電話丸の内1654・5014

出張所 大阪西区土佐堀大同生命ビル
電話 土佐堀 5-6225番

出張所 京都府古屋市中区矢場町五之切東陽ビル
電話 中國 2-7855番



事工装舗路道トルアフスア
事工装舗トルアフーターオウ・乳青瀝
販理代トルアフーターオウ・トルアフスア倉小
販造製ソイフルヒサア

都工市工株式會社

地番二二一丁一橋京園橋京町東
番八八二二(56) 橋京 話電

昭和十三年

道路の改良

十一月一日

第十二卷
第十號

言頭卷

戰へば必ず勝ち、攻むれば必ず取る、之れ皇軍の偉力ならずや、吾等銃後國民の驚嘆し感激し堪能はざる所である。乍去其の戦士の惡戦苦闘は言語に絶し、或は極寒酷暑と戦ひ、或は糧食續かずして飢餓と戦ひ、或は霪雨と飛び来る敵彈と戦ひ人生のあらゆる苦痛を忍び生きて此苦しみを受けんよりは寧ろ死するに如かずとの念ひさへ惹起すことも禁じ得ないであらうとまで想像するのである。斯くてこそ斯くも稀有の戦果を收め得るのである。之れ固より至尊の御稟威の然らしむる所であるがまた將兵の忠誠なる精神の發して斯に至りたるを信ずる。顧みて銃後國民の行動を観るに夫の武運長久を祈願し丈けな黒髮を根元より切り取つて之を神社に奉納せる妻女がある、日常生活的の資を節約して國防費に獻金せる貧者がある、學餘の時を割いて労働奉仕の赤誠を盡す青少年がある、共同作業に協力して出征家族の爲めに耕作し紡織する農男農女がある、之れ概ね農漁山村に認めらるゝ情景である、其處には美名の下に虛名を搏せんとして他人を苦勞せしむる己れは却つて安閑なる生活を營む者の如きは殆んど見出されないのである。斯くありてこそ戦士も勇氣を鼓舞され天祐豊かに百戰百勝の戦果を見るのである。

如何。

複雑化し行くの難關を開きし防共の實績を收め赤化から世界を救ふの大使命を達成せんが爲めには更らに十二分の準備を爲さねばならぬは敢て言を費やすの要なく明白なる所である。須らく一糾乱れざる一致協力を強化し設令多少の異見あり、相當な理由の存する所あるも之を差控ゆるの必要を見る、彼の帝國大學改革問題に關しての文部當局と東帝大側との對立の如き、產業組合青年聯盟全國大會の亂闘劇の如き寔に以て沙汰の限りである。將又對支中央機關問題に關し意見を異にする者の主張に對して「終始論理矛盾支離滅裂の狀態である」との激越なる句調を以てしたる批判の言を新聞紙に掲載報道したるが如きは此の大なる國情に直面しながら如何にも政府部内に於て相廻縛擦の形相の歎然たるものあるを思はしむるに足る、果して斯の如き感想を一般國民に抱懷せしむるに至らば由々敷大事で其の結果や如何、吾曹は心窓の悽然たるを覺ゆる次第である。新聞當局は深く此に留意し、苟くも舉國一致、官民一心協力の體制を率るが如き記事は斷じて之を自制すべきである。(沈民)